

積丹町の財政を家計に例えてみると・・・

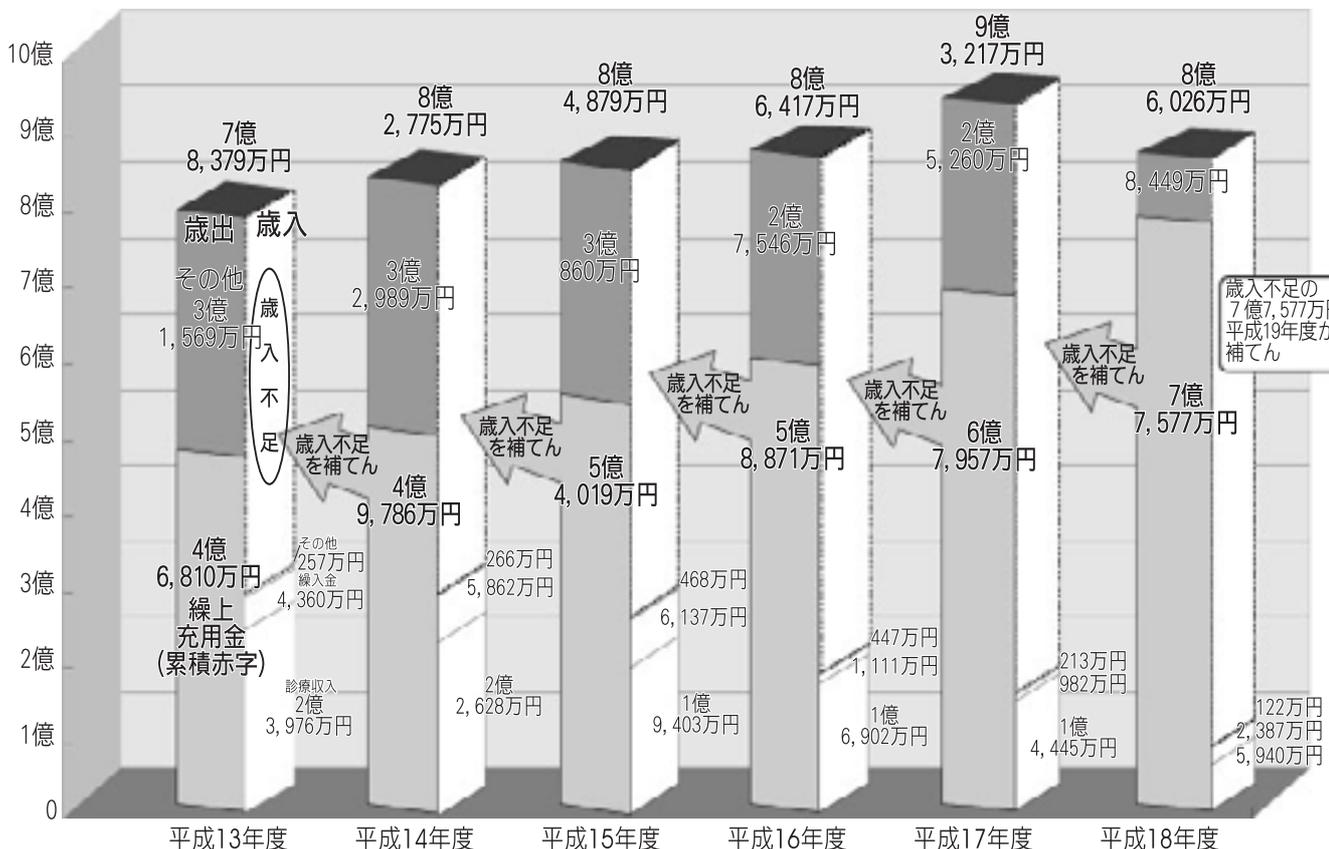
生活費

収 入		支 出		
給料	(町税、地方交付税など)	368万円	食費・家賃 (人件費)	104万円
妻のパート収入	(使用料や手数料、財産収入など)	23万円	医療費 (扶助費)	12万円
親から使途を限定された援助	(国や道からの補助金など)	50万円	光熱水費、保険料など (物件費)	76万円
預貯金の引き出し	(繰入金、繰越金)	30万円	車などの修理代 (維持補修費)	9万円
借入金	(町債)	29万円	成人した子どもへの仕送り (繰出金)	105万円
	合計	500万円	借金の返済 (公債費など)	93万円
資産の状況			交際費 (補助費など)	49万円
預貯金の残高 (全会計)		54万円	家の増改築費 (普通建設事業費等)	51万円
家や車のローンの残高 (全会計)		1,091万円	預貯金 (積立金)	1万円
生活費が足りなくて借りた借金残高 (特別会計の累積赤字)		173万円	合計	500万円

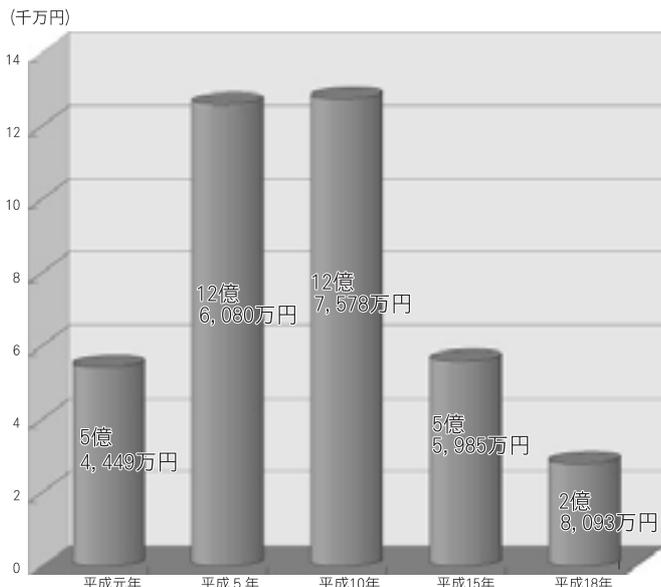
町の財政と家庭の家計ではしくみが違いますが、分かりやすくするため、平成18年度の一般会計決算額を年収500万円に家計に例え、町の財政を家計簿に置き換えてみました。平成18年度は、交際費や家の増改築に経費がかさみ、29万円を借入しなければ生活ができない状態でした。さらに、家や車のローンなどこれまでの借入金が1,264万円残っており非常に厳しい台所事情です。

国民健康保険事業（直診勘定）会計の推移

国保診療所の経営状況は、累積赤字が年々増加し、平成13年度から比較すると3億円以上増えています。また、特別会計は独立採算性が原則である中、平成18年度は、事業収入8,449万円のうち、一般会計等から2,387万円繰入金を充ててもなお7億7,577万円が不足し、不足分は翌年度から借りてようやく収支バランスを保つなど厳しい経営状況となっています。

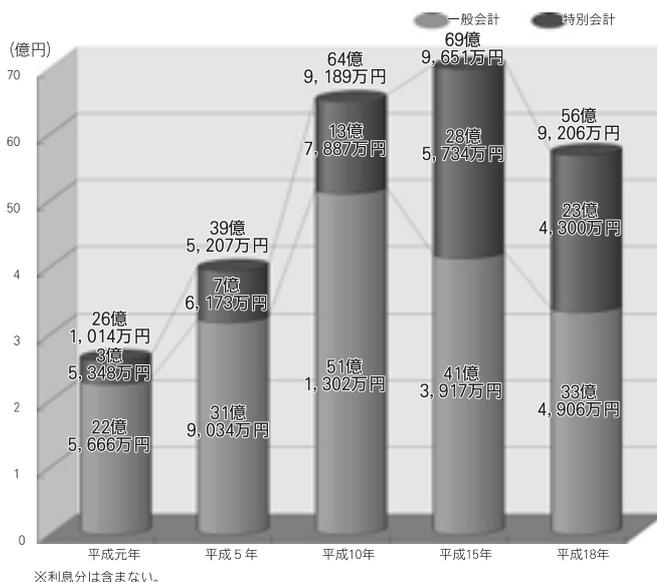


基金（貯金）の推移（全会計）



基金は、将来のために財産を維持し、資金を積み立てるため、また、定額の資金を運用するために設置されているものです。平成18年度は、前年度から1億1千万円減額し、2億8,093万円となっています。

地方債（借金）の推移（全会計）



地方債は、公共事業等を行うために国や金融機関から借り入れたお金で、皆さんの恒久的な福祉向上のための施設整備（道路・学校・下水道などの町づくり基盤）に活用されます。平成18年度は、公共事業に充てる地方債の発行は平成15年度と比較して約60%減少し、残高も減少傾向にあります。

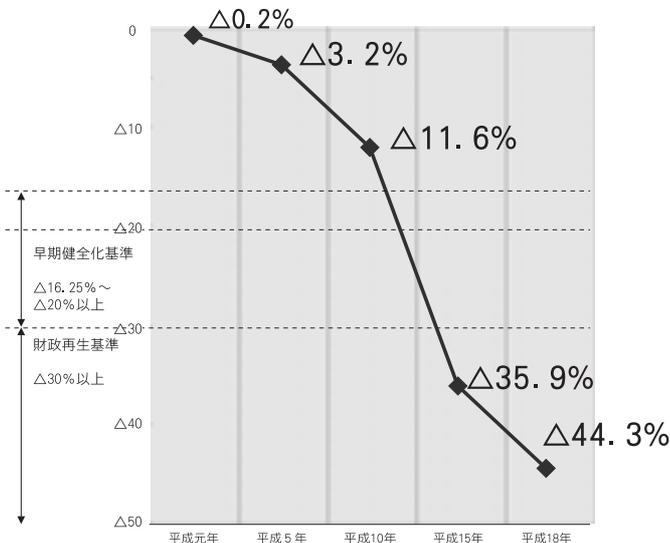
積丹町の
「ポイント！」

『連結実質赤字比率』の推移

昨年12月に新しく自治体財政をチェックする指標の数値基準が公表されました。現行制度の「実質赤字比率」と積丹町がポイントとなる『連結実質赤字比率』について、確認してみましょう。（平成元年度から平成15年度までの比率は参考値）

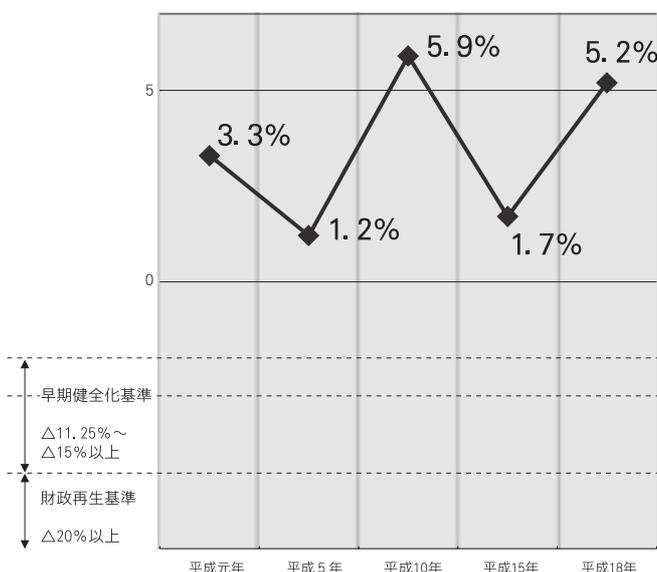
連結実質赤字比率

一般会計のほか水道や下水道、介護保険など自治体のもつ全会計に占める赤字の割合。平成18年度は9億円を超える累積赤字により比率が高くなっています。



実質赤字比率

一般会計に占める赤字の割合。平成18年度は5.2%と黒字決算でした。



「財政再生基準」に限り、H20・21は 40%以上、H22は 35%以上の経過措置が適用されます。